

防衛大学校

受験案内



NATIONAL

DEFENSE

ACADEMY



日本と世界の平和を、一生の仲間と築く。
成長できる舞台。防衛大学校



特徴.1

日本と国際社会の平和を担う
安全保障のリーダーを育成



防衛大学校
広報チャンネル



特徴.2

人間的な成長が実感できる



特徴.3

自己実現が叶う
多様な富んだ職域に直結



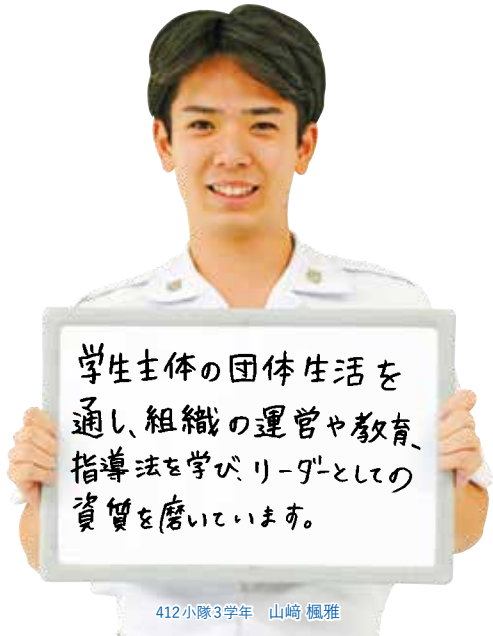
特徴.4

生涯の友と呼べる
仲間ができる



[Q.1]

安全保障のリーダーとなるため、
学んでいることは？



412小隊3学年 山崎 楓雅

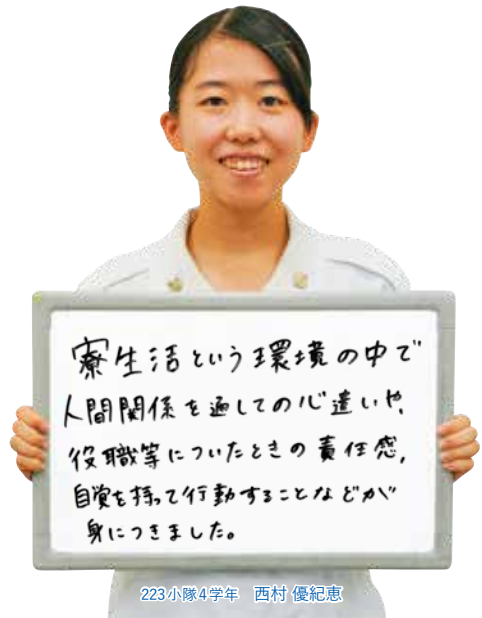
日本と国際社会の平和を担う、
安全保障のリーダーを育成する学校です



日本国民が日々笑顔で安心して生活し、かつ、日本が経済的に発展していくためには平和が不可欠です。防衛大学校では、日本と国際社会の平和を担う安全保障のリーダーとなるため、安全保障の基礎や国内外情勢の分析に必要な戦略的な視野を養います。

[Q.2]

人間的な成長を実感することは
ありますか？



223小隊4学年 西村 優紀恵

人間的な成長を自ら実感できます



レベルの高い学術教育に加え、防衛大学校独自の「防衛学」、自衛隊の幹部自衛官となるための訓練、規則正しい寮生活等を通じ、組織マネジメント力、リーダーシップ等の能力が身につきます。

≫ 教育課程

防衛大学校の教育課程では、文部科学省の定める大学設置基準に準拠し、教養教育、外国語、体育、専門基礎の各科目と専門科目(人文・社会科学専攻または理工学専攻)を一般大学と同じように教育します。これに加えて、本校独自の防衛学(防衛に関する学術分野)を教育します。また本科卒業時には、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が行う審査を受けて学士の学位が授与されます。

教育体系

1 学年		2 学年		3 学年		4 学年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
●人文・社会科学専攻は専門基礎のすべて、理工学専攻は専門基礎の一部を履修します。		●教養教育・外国語・体育・防衛学・専門科目を履修します。		●2学年進級時に人文・社会科学専攻は3、理工学専攻は11の専門学科に区分され、陸上・海上・航空各要員の配分が決定されます。(学科区分は本人の希望及び成績を、要員配分は本人の希望、成績及び適性を考慮して決定)		●卒業研究論文を作成します。	
●教養教育、外国語、体育及び防衛学の一部を履修します。		●理工学専攻は残りの専門基礎を履修します。					
②専門基礎科目		①教養教育		⑥専門教育科目			
		③外国語科目					
		④体育科目					
		⑤防衛学科目					

※□内は基礎教育・教養教育科目を示す。①～⑤は共通科目、⑥は学科ごとの科目

[Q.3]

日々の学びや訓練を通じ、どのような
キャリア・目標が描けますか？



142小隊4学年 中島 稜

自己実現が叶う、多様性に富んだ
やりがいある職業に直結します



国家の緊急事態に活動する自衛隊には、あらゆる事態に対応する能力が求められるため、陸・海・空自衛隊の第一線部隊だけでなく、広報・経理・補給などの後方支援や情報分野・サイバー・宇宙といった新領域の分野まで幅広い業種・職種があります。

[Q.4]

防衛大学校において、
仲間はどのような存在ですか？



443小隊4学年 アンジェル・ロドリゲス・ガイラ

生涯の友と呼べる仲間ができます



青春真っただ中の4年間。入学した動機は違っても同じ時期、同じ場所で寝食を共にし、一緒に教育や訓練に励んだ仲間は特別な存在となります。厳しくも有意義な学生生活の中で育まれる絆は、生涯の宝物になります。

学科・科目の概要

人文・社会科学専攻	理工学専攻
人間文化学科	応用物理学科
公共政策学科	応用化学科
国際関係学科	地球海洋学科
	電気電子工学科
	通信工学科
	サイバー・情報工学科※
	機能材料工学科
	機械工学科
	機械システム工学科
	航空宇宙工学科
	建設環境工学科
学科共通	
教養教育 外国語 体育 専門基礎 防衛学	

注：2学年進級時に、全14学科の中から本人の希望及び成績に応じて学科が区分されます。

カリキュラム

科目区分	人文・社会科学専攻				理工学専攻								
	2学年 進級時	3学年 進級時	4学年 進級時	卒業時	2学年 進級時	3学年 進級時	4学年 進級時	卒業時					
必要単位数	35	75	114	152	35	75	114	152					
区別単位数	教養教育				4	8	18	24	4	8	18	24	
	外国語	英語				6	12	-	12	6	12	-	12
		英語以外の外国語				-	-	-	2	-	-	-	2
	体育				3	4	5	6	3	4	5	6	
	専門基礎				18	-	-	18	19	29	-	29	
専門				-	22	42	66	-	12	30	55		
防衛学				2	6	14	24	2	6	14	24		



人文・社会科学専攻の3学科は、いずれも21世紀の国内外の情勢や公共政策のあり方など、幹部自衛官として必要な基本的知識の修得を目的とした、防衛大学校ならではの学科です。また、バランスのとれた科学的思考が身につくよう、カリキュラムには理工系の科目も導入しています。



人間文化学科 多角的に異文化コミュニケーションを学ぶ

近年、国際平和協力活動などで自衛隊が海外に派遣される機会が増えています。さらにわが国の平和と安全を確保するための多国間・二国間の防衛交流も、具体的な行動を伴った協力へと深まりつつあります。このような国際的な実務の最前線は、究極的には固有の文化的背景をもつ人と人がじかに接する場となります。したがって、そうした現場で活動する幹部自衛官には、各国・地域の文化的特徴を理解した上で、文化や宗教の違いによる摩擦を回避し、効果的なコミュニケーションを行う能力が必要です。

人間文化学科は、わが国の安全保障をめぐるこうした要請にこたえるべく、人文学科の諸分野の教育を通して、異文化理解/異文化コミュニケーション能力を育成することを目標としています。



・心理学概論

異文化理解の前提となる、文化的多様性を越えたコミュニケーションの方法や、多様な価値観を理解する能力を心理学的観点から明らかにします。

・現代思想

欧米の近・現代思想の潮流を学び、人間文化理解のための哲学的基礎を解明します。

・地域文化論

フィールドワークや地図など、人間社会の分析手法を身につけ、場所・環境と文化との関わりや、集団の多様性と共通性など、異文化理解の基礎を学びます。

・異文化コミュニケーション論

異文化間のコミュニケーションにおいて生起する問題、ならびにその解決方法を考察していきます。

その他、学びのポイント

教室での講義以外に、校外研修では体験を通して楽しく学び、教官と学生の交流もさかんです。少人数によるゼミ形式の授業が多いため学術的な調査方法やプレゼンテーションのルールなど、個別的な指導を受けることができます。

>>> 在校生の声!

世界情勢に対する視野を広げることができます

私は、国防と安全保障について深く学べると思い、防衛大学校に入学しました。私の専攻する国際関係学科では、国際法や世界各地での危機管理政策、国際政治学を学び、世界情勢に対する視野を広げることができます。また、授業でリアルタイムの国際問題を扱うこともあり、同期や教官と多くの意見を交わし、知識を深めることができます。

◀ 思い出の一枚：苦楽を共にする仲間たち

321小隊2学年 富永 真行



公共政策学科 さまざまな問題を分析・解決する力を身につける。

全ての幹部自衛官に求められる「社会に対する理解」を深めるための学科です。政策的な視点を軸に、多様な学問領域を総合的にカバーします。特に「社会科学」と呼ばれる分野の主要な学問に幅広く取り組み、科学的手法と方法論を身につけることで、様々な問題を多角的に分析し、その解決策を導き出す能力を培います。この能力は幹部自衛官として将来取り組むことになる日々の業務においても大いに役立つものです。



・公共政策総論

公共政策の効果と評価の手法を修得することで、政策が国民生活にどのような影響を及ぼすかを学びます。

・管理学

組織論的観点から組織のマネジメントや戦略の問題を学びます。

・社会調査法

社会調査の具体的な方法を実習します。事例調査法、自由面接法、生活史法、質問紙調査法などの分析手法を学びます。

・政策過程

外交防衛政策の立案から実施に至る過程を「流れ」として観察し、各国の政策に影響を与える歴史的背景について学習します。

その他、学びのポイント

政治学、経済学、法学、社会学、組織論という5つの分野を中心に学びます。第1学年で履修する6つの科目、「政治学基礎」「経済学基礎」「法学基礎」「憲法」「社会学基礎」「組織管理」を土台とする、より高度で多様な専門科目を履修します。少人数のゼミ科目として「公共政策研究I・II」も用意されています。

専門科目一例



国際関係学科 国際社会の動きと日本の関わりを知る

グローバル化が進む中、国際社会では、政治や外交、安全保障、経済、文化、人の移動、パンデミックなど、様々な課題が重層して絡み合っています。国際関係学科では複雑な国際社会において日本がどのような立場に置かれているのかを的確に把握するための手法を学びます。そのために国際関係学科のカリキュラムは、国際政治学や比較政治、国際政治史、外交史、国際システム、軍備管理、危機管理といった理論・歴史、国際機構や海洋法などの国際法、7つの国・地域にまたがる地域研究の3つの科目群から構成されています。このような充実したカリキュラムの下で、国際関係学科は将来の幹部自衛官になる学生に、実り多い安全保障の専門教育の場を提供します。

その他、学びのポイント

海外の大学教授や各国駐日大使による特別講演に加え、アメリカ、インドネシア、オーストラリア、韓国、カンボジア、シンガポール、タイ、東ティモール、フランス、フィリピン、ベトナム、モンゴル、ラオスなどから派遣された留学生との交流を通じて、幅広い視野を養うことができます。

専門科目一例

・国際政治学 I・II

国際社会の特徴、平和や紛争の問題など、国際政治を学ぶために必要な基礎的な概念や理論を身につけます。

・軍備管理論

核兵器や生物化学兵器、小火器などの軍備管理と軍縮についての、基礎から応用や諸課題について学びます。

・国際政治史 I・II

近代国家の成立から冷戦の終結まで、ヨーロッパを中心とした国際政治の歴史を学びます。

・各地域の政治・外交

アメリカ・中国・ロシア・北東アジア・東南アジア・南アジア・中東について、それぞれの国・地域の今日の安全保障環境や日本との関係等を、歴史・政治・外交・経済・社会・宗教・文化などのさまざまな観点から学びます。

≫≫ PICK UP

アメリカ・中国・ロシア・北東アジア・東南アジア・

地域や各国の平和が密接に関わり合う中、国際情勢の動向を的確に捉え、国際社会における日本の位置や役割を理解することは、これからますます重要になってきます。特に幹部自衛官は国の防衛に携わることから、国連平和維持活動(PKO)への参加などの機会が多く、国際平和を推進するための知識と能力が求められています。そのため国際関係学科は、世界の幅広い分野で活躍できる幹部自衛官を育成することを目指しています。「平和や安全とは何か」「なぜ紛争や危機が起きるのか」「国際関係はどうあるべきか」といった問題意識を持つ学生を歓迎します。また、国際関係学科では、危機管理プログラムも履修することができます。



5～6人のゼミ。複雑な中東をめぐる国際関係について、英語文献を輪読し、活発な議論を通じて専門的な知識を身につけます。



≫≫ 卒業生の声!

学んだ知識を応用して採用広報の仕事へ

人間文化学科では、異文化コミュニケーション論や心理学等、人と人の関係を司る様々な理論・手法を学びました。今、私は採用広報の仕事をしていますが、自衛官の職業的魅力を一般の方々に分かりやすく伝える上で、当時学んだ知識を応用しています。また、幹部として隊員に指示等をする際にもそれは活かしていると思います。

◀ 思い出の一枚：開校祭での観閲行進旗手

陸上幕僚監部人事教育部募集・援護課 2等陸佐 大堀 智子





理工学専攻は、応用科学群、電気情報学群、システム工学群の3つの学群からなり、理学や工学を幅広く学ぶことができます。2学年進級時に各学科に分かれ、その後3年間かけてそれぞれのカリキュラムに基づき、専門科目を学ぶことになります。



応用物理学科 科学技術の基礎を学び、論理的思考力を養う

応用物理学は、自然法則と技術的発明との橋渡しを担う学問です。応用物理学科では自然科学を学ぶ上で重要な力学、電磁気学、熱力学、連続体力学、量子力学、統計力学といった基礎科目を学び、生体人間情報、高速弾道学、放射線計測、放射線安全管理学、固体物理、理論物理といった教育研究分野を展開することで科学・技術全般に通じた基礎学力を備え、かつ柔軟性に富んだ論理的思考力を養います。これらは、科学・技術の粋を集めた自衛隊の装備・運用に長けた幹部自衛官となるため、極めて重要です。



・放射線計測

各種放射線の性質、検出手段及び放射線防護について学びます。

・物質科学・量子科学

量子力学や熱統計力学を用いて、物質の巨視的性質を多数の原子と電子の微視的振る舞いとして理解し、現代の科学技術を支える機能性素子などへの応用を学びます。

・人間情報工学

人間の視覚や脳のメカニズムなどに関する基礎知識から、脳機能計測といった応用技術まで幅広く学びます。

・バイオメカニクス

普段使っている私達の体がどのような仕組みで動いているか、ということ力学視点から学びます。

その他、学びのポイント

4学年の卒業研究では、人間情報工学、高速弾道学、コンピュータシミュレーション科学、物性物理学、そして素粒子物理学などの基礎(理学)から応用(工学)までの幅広い分野からテーマを自由に選び、教官と1対1で卒業論文をまとめていきます。



>>> 在校生の声!

「基礎」「応用」を確実に身につけることができます

応用物理学科では、基礎科目に演習授業を設けたり、応用的な内容に実験を連携させたりすることで、「基礎」「応用」を確実に身につけるだけでなく、電磁気学、統計力学、量子物理学などに関する専門性も高めることができます。また、教官との距離が近いので、学習面はもちろん、私的な相談や悩みも親身に聞いてもらえたりもします。

◀ 思い出の一枚：小隊学生長付を経験

323小隊 3学年 樺島 光



応用化学科 化学を学び物質の持つ可能性を知る

化学は物質の構造、反応、物性などを探求・理解し、目的に合った特性、機能をもつ物質を創造する学問です。応用化学科では、物質創成、物質解析、環境エネルギー、バイオサイエンス分野の教育・研究を行っています。物質の原子レベルの本質から、材料、環境、生物までの一貫した知識体系が構築され、自然や科学への興味を深めるだけでなく、化学に関連した事象への対応力が培われます。さらには、火薬類に代表される高エネルギー物質に関する教育研究も充実しています。

応用化学科での3年間は、合理的な思考に基づいた正確な判断力・実行力を身に着けた自衛官の育成に結びつきます。応用化学科は、理工学系学生に共通した基礎教育を担うだけではなく、常に先端科学を見据えて研究領域を拡充し、新しい分野に挑戦する学科でもあります。



・分析化学

溶解、分離、濃縮、元素の化学状態の分析、またその理論的基礎となる溶液内化学平衡の概念などを学びます。

・資源エネルギー化学

持続可能な開発が望まれる現代社会に必要な資源・エネルギーに関する知識を、基礎から最新の技術まで学びます。

・応用無機化学

遷移元素、電子不足結合、混合原子価化合物、錯体、無機溶液化学、機能性無機材料について学びます。

・生物情報学

生物が持つ様々な情報を解析することで、生命現象の一端を理解します。

その他、学びのポイント

4学年の卒業研究では好きな研究室・教官を選び、約1年かけて与えられたテーマについて実験したり議論をしたりしながら、卒業論文を完成させます。応用化学科は伝統ある学科ですが、常に新しいものを取り入れダイナミックに変化を目指す学科でもあります。

専門科目一例

地球海洋学科 広大な視野で地球環境を学ぶ



私たちが住む惑星地球について教育研究することが目的です。総合的な視野に立ち、地球環境を理解できる人材を育成するために、地球惑星の自然現象について基礎と専門教育を行います。教育研究分野としては、大気の運動について知る大気化学、航空管制のための航空気象、地球内部と地震を理解するための固体地球科学、宇宙や地球惑星を調査する宇宙惑星リモートセンシング、音波伝搬により海洋構造を調べる海洋音響学、海洋の熱、氷、運動量を追跡する海洋探知情報、海中音波の探知方式に関する海洋探知システムなどがあります。

その他、学びのポイント

2学年では地球海洋学の基礎的な授業、3学年では、大気科学、固体地球科学、海洋音響工学などの授業を行います。4学年では台風、気象レーダー観測、都市の温暖化など自由にテーマを選び、観測や実験・解析・理論を通して教官と議論しながら卒業論文をまとめます。

・航空気象学

航空機の運用に関する気象現象、例えば低層ウィンドシアや晴天乱気流などについて学びます。

・天文学

地球が宇宙空間においてどのような存在環境にあるのかを、太陽物理学及び宇宙学的観点から実証的に学びます。

・地圏環境科学

岩石圏、気圏、水圏を含む地圏における地球内部構造などの基礎的な知識と、3圏の相互作用について学びます。

・海洋音響計測

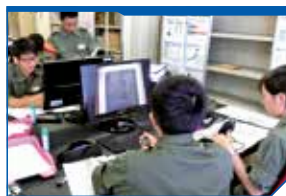
海洋音響に関する基礎と応用、例えば波動方程式、水中音波の反射と透過、海洋音響トモグラフィーなどを学びます。

専門科目一例

>>> PICK UP

高度な知識や最先端技術を学べるカリキュラムを編成

少人数教育を心がけ、実験と演習を多く取り入れ、教員と学生とのふれあいを大切にしています。大学教育ですから、ある程度高度なレベルが求められますが、応用数学、力学、熱力学、電磁気学、量子力学、統計力学、連続体力学などの基礎的な内容から徐々に知識を積み上げ、さらに回路論、弾塑性力学、物質科学、量子物理学、光科学、プラズマ工学、原子核物理学へと発展させて、各専門分野の高度な知識や最新の技術を学べるようにカリキュラムを編成しています。卒業研究では、自由にテーマを選び、教員と1対1で研究を進めます。テーマの選び方から問題点の捉え方、問題の解決法、データの収集法、論文の書き方、発表の仕方など、将来の仕事にも役立つ実用的な能力を身につけます。



大学院に相当する理工学研究科前期課程及び後期課程を受験し、修士号及び博士号の取得を目指すこともできます。(受験資格についてはP 19を参照)

>>> 卒業生の声!

応用化学科で学んだ幅広い知識は現在にも活かされています

卒業研究では、新規磁性材料をつくる研究のために何度も試行錯誤を繰り返しました。化学反応を観測しつつ、分析と実験を重ねる中で、物事を総合的に分析し判断する力を養う事が出来ました。他にも学科で学んだ幅広い知識や、学生生活を通じて得た企画力などは現在の船舶を取得するためのプロジェクトにおいても活かされています。

◀ 思い出の一枚：共に学んだ仲間 防衛装備庁プロジェクト管理部事業監理官(艦船担当)付 3等海佐 角村 将希





基礎から専門にいたるまでの一貫した教育と少人数制での卒業研究によって、将来の科学技術の進歩を見通す確かな目と豊かな人間性を持った幹部自衛官の育成を目指します。



電気電子工学科 21世紀を支えるエレクトロニクスを学ぶ

電子を自由に操り応用する技術であるエレクトロニクスは私たちの生活をますます豊かにしています。近い将来到来するIoT技術によるスマート社会においてもその根幹を支える重要な技術となっています。電気電子工学科では、エレクトロニクスの基礎から最先端の応用まで一貫して教育を行います。これらは、エレクトロニクスの知識を応用して21世紀の防衛システムの構築や運用に携わる幹部自衛官となるために極めて重要です。



・電気数学

フーリエ解析・変換とラプラス変換による信号の周波数スペクトル解析法、線形システムの過渡現象と周波数特性の解析法を学びます。

・電子デバイス

トランジスタ、LED、液晶ディスプレイなどの電子デバイスの基礎理論と各デバイスの特性、その応用を学びます。

・制御工学Ⅰ・Ⅱ

ロボットに使われるモーターの位置制御系が構成できることを目標に、フィードバック制御系の設計や解析法を学びます。

・電気エネルギー工学

エネルギーの基本形態、エネルギー変換、電気エネルギー発生のおくみや貯蔵方法、輸送方法を学びます。

その他、学びのポイント

演習や実験を効果的に取り入れることにより、エレクトロニクスの基礎がしっかり学べるよう配慮されています。また、指定した科目の単位を修得することで、第1級陸上特殊無線技士や第3級海上特殊無線技士の資格を得ることができます。



>>> 在校生の声!

「国防」を担う仕事に大きな意義を感じて入校しました

私は人を助ける職業に就きたいとの想いから「国防」を担う仕事に大きな意義を感じ、高校で行われた防衛大学の説明会をきっかけに入校しました。4学年で実施する卒業研究では、研究の一環として学会に参加する機会を頂き、そこで自身の研究テーマであるナノ粒子に関する発表を見学し、最新の知識に触れることができたのが印象的でした。

◀ 思い出の一枚：月例観開式での一枚

241小隊4学年 森里恵



通信工学科 情報通信社会の基盤技術である通信を学ぶ

情報通信工学科では、無線通信、衛星通信、光通信、インターネット、携帯電話、携帯端末などにより、地球上の出来事を多くの人々が瞬時に知ったり、また送ったりできるという双方向の通信や、航空機や船舶に利用されている電波を応用したレーダや航行援助装置などの通信装置、電波応用機器についてなど基礎的・専門的知識を習得できるよう教育します。現状を分析しデータを総合して的確な判断を下す、といった分析や判断ができるようになることが目標です。



・光通信工学

光による情報伝達の原理、光システムを構成する半導体レーザ、光ファイバ、光増幅器などの構成要素について学びます。

・通信計測

各種測定器やセンサの基本的な動作原理とその使用法を学び、電磁気量を正確に測定・評価する能力を養います。

・電波工学

電波がどのようにして空気中に放射され、空気中を伝わり、受信者のところまで届くのかについて学びます。

・コンピュータ工学

情報理論やデジタル回路などのコンピュータ工学の基礎知識を習得し、情報通信ネットワーク技術を学びます。

その他、学びのポイント

通信工学の基礎から、IP技術や無線通信などの応用分野まで幅広く学べます。また、特定の科目を履修することにより、第1級陸上特殊無線技士及び第3級海上特殊無線技士の資格を取得できます。国家試験における一部の受験科目が免除されます。



サイバー・情報工学科 情報化社会の仕組みを科学する

情報は私たちの利用可能な資源です。サイバー・情報工学科では、情報の収集から整理・蓄積・加工、ネットワークを利用した交換まで、最新の技術や考え方を利用して、より速く、また少ない資源で実現することを研究しています。本学科の学生は、最先端の設備を使って、情報技術の基盤となる数学、アルゴリズム、プログラミングから、サイバーセキュリティや人工知能などの最新技術まで幅広い分野について学んでいます。

その他、学びのポイント

2学年ではコンピュータの基礎を、3学年ではアルゴリズム論や数値解析などを学習し、コンピュータを使いこなして問題を解決する能力を高めます。4学年ではそれまでに学んだ知識と各自の興味に基づいてテーマを絞り、卒業研究を行います。

・プログラミング言語

アプリケーションを開発するために必要なプログラミング言語の基礎を学びます。

・インターネットメディアコミュニケーション

ネットを媒介としたコミュニケーションの特性を、さまざまな事例を通して理解します。

・人工知能Ⅰ・Ⅱ(サイバーコース)

人間、組織、社会の知能はどこから生まれ、どのような形で存在するのかについて学びます。

・オペレーションズ・リサーチ(情報基盤コース)

数理モデルやITツールを用いて様々な意思決定問題を解くための科学的手法を学びます。
※ 3学年進級時にコース選択をします。

機能材料工学科 材料を制する者が科学技術を制する

物質に優れた性質が見いだされ、我々が利用するとき、その物質は材料と呼ばれます。機能材料工学科は、材料の特徴ある性質を実験と理論から知り、利用しようとする分野を系統的に学習することのできる学科です。総合的な観点から材料を理解し、先端的応用研究まで対処できる人材を育成するため、材料設計、材料創製、材料評価、金属材料、電子材料、機能材料の六つの分野で教育を行っています。材料を制する者が科学技術を制するという気概で教育・研究を行っています。



・個体電子物性

電子物性に関する導電現象、誘電的性質、磁気的性質などの基礎知識について学びます。

・材料評価学

各種材料の特性の評価法及び原理について学びます。

・材料力学

種々の用途に使われる材料の変位や変形について学びます。

・結晶工学

原子配列の対称性と固体の結晶構造を理解し、結晶による回折現象の基礎を学びます。

その他、学びのポイント

4学年の卒業研究では、圧力-電気変換材料、光-電気変換材料熱、熱-電気変換材料、透明半導体等の無機薄膜、有機単分子膜、高機能液体材料、エネルギー・環境材料、ファインセラミックス、新奇ガラス等を対象とし、教官とマンツーマンで研究を進めます。



>>> 卒業生の声!

憧れていた研究開発の道へ

私は研究開発の道に憧れ、本科卒業後、数年の勤務を経て研究科に進み技術系幹部となりました。現在は陸上自衛隊唯一のシステム開発専門部隊であるシステム開発隊において、在学中に培ったプログラムや運用解析の技能を設計・開発業務に活かしつつ、苦楽を共にした技術系の同期・先輩に支えられて充実した勤務をしています。

◀ 思い出の一枚：カッター競技会優勝 陸上総隊システム通信団システム開発隊プログラム開発隊 3等陸佐 村崎 暢彦





各学科は1学年あたり40名程度の少人数教育が行われています。従来からある分野はもちろんのこと、例えば航空宇宙工学科では、人工衛星の軌道などを学ぶ「宇宙航行理論」など、新しい分野についても学ぶことができます。



機械工学科 日用品からロケットまで「ものづくり」を学ぶ

機械工学は、生活に欠かせない家電製品や自動車などの身近なものをはじめ、人と動物の動きを模倣するロボット、宇宙探査のためのロケットやローバ（惑星探査車）のようなもの含む、あらゆる機械を生み出す「ものづくり」の学問です。熱、流体、材料、機械運動など機械工学の基礎となる力学科目から、機械の制御、新材料の創成、加工の技術、ロボットの設計など先端技術に関わる題材を扱った応用科目まで、体系的に学びます。これらは、知的想像力に富み、合理的で柔軟な思考力を持つ人材となるために極めて重要です。



・流体力学

流体の物理的性質を理解し、空中、水中を推進する原理、流体からエネルギーを取り出す原理を学びます。

・機械設計製図

基礎科目で学んだ知識を駆使して設計計算を行い、コンピュータによって設計図面に表現します。

・制御工学

動的システムの基礎概念について、フィードバック系を中心に周波数領域での取り扱い方を学びます。

・機械工学創造

これまでに学んだ知識を活用して、設計から製作、試験までの「ものづくり」の一連の過程を実体験で学びます。

その他、学びのポイント

カリキュラムでは、コンピュータ支援教育等の洗練された手法を活用することにより、常に機械に関する最新の高度な専門的知識を修得できるよう配慮しています。知的創造力に富み、かつ合理的で柔軟な思考力を養うことは、卒業後のさまざまな活動において宝となります。



>>> 在校生の声!

卒業後は、国内外問わず活躍していきたいと思います

私は自分の進路を考えた際、刻一刻と変わる情勢の中、世界の、日本の、人のためになることをしたいと考えていました。そして、防衛大学校での4年間を通して大きく成長でき、卒業後は幹部自衛官として国内外問わず活躍できると知り入学しました。現在、航空宇宙工学科では航空機やロケットだけでなく、飛翔体や人工衛星の材料や性能についても学んでいます。

◀ 思い出の一枚：幹部の方にいただいた自画像

131小隊2学年 大高 真実



機械システム工学科 機械システムを学び最新の装備を使いこなす

機械システム工学科では、将来最新の装備品を運用したり、将来装備品の開発に携わったりすることができる知識・技術、判断力、柔軟な発想を持つ人材を育てることを教育目標としています。このため本学科では、力学、制御、熱エネルギー、流体、材料、加工、船舶・海洋などの機械工学の基礎知識と、実験、演習、実習を重視した設計製図や卒業研究を通じて最新ロボット・コンピュータ応用技術やエンジンなどの機械システムに関する理論と応用について教育するとともにこれらを統合・体系化できる能力を養成します。



・機械工作

「ものづくり」の中心課題の一つである、機械工作の理論と実際について分かりやすく学びます。

・ロボット・メカトロニクス

ロボットの機構、制御等の基礎知識から最先端の知能ロボット等の応用知識まで幅広く修得します。

・船舶工学

浮体静水力学、復原・動揺性能、船型学及び船体構造のそれぞれについての知識を修得します。

・コンピュータ応用解析

C言語及びmathematicaを用いてプログラミングの考え方を身につけ、数値計算のための手法を学ぶことを目標とします。

その他、学びのポイント

本学科では多関節ロボットなどに関する最先端の教育研究を行い、将来の技術革新に対応できる知識と発想力を育てています。卒業研究では研究科(→P.19)の学生と一緒に最新の研究課題に取り組み、技術的諸問題の解決法と研究成果をプレゼンテーションする能力も養います。

専
門
科
目
一
例



航空宇宙工学科 大空を飛ぶための知識と技術を学ぶ

航空工学の基礎学問を十分修得し、加えて宇宙工学関連科目等を学びます。大気圏内外を飛行する航空機、飛翔体、ロケット等を対象とした9学問分野を展開、それぞれの分野における基礎的学理を系統的な講義、実験、演習プログラムにより教育します。航空機や人工衛星のような宇宙機等に関連した極限環境における諸問題を発見して、これらを創造的に解決する能力を養い、将来の航空宇宙技術の発展に十分対応できる柔軟性を持つ者を育成することを目的としています。

その他、学びのポイント

航空宇宙工学は多くの学問分野を統合して、航空機などの飛行システムをまとめ上げることを目的とします。このため空気力学、航空原動機学、航空機力学、ヘリコプタ工学、飛行制御、航空機構造力学、宇宙航行、推進工学、航空宇宙工学設計の9分野を展開しています。

専
門
科
目
一
例

・航空熱力学

燃料の燃焼で発生する熱エネルギーによって生まれる動力や推進力の仕組みについて学びます。

・宇宙航行理論

宇宙船・人工衛星・宇宙ステーションの軌道など宇宙工学の基礎知識を学びます。

・航空機構造力学

飛行中に受ける荷重やそれに耐えるための飛行機の構造様式について学びます。また、骨組み構造の基礎も学びます。

・ヘリコプタ工学

ヘリコプタとはどんな航空機なのかを、ロータの空気力学を重点に飛行機と対比しながら理解します。

建設環境工学科 よりよい生活環境を実現する学問

人々の豊かな生活を支えるためには、建物、道路、橋梁、港湾など、さまざまな社会基盤施設が不可欠です。建設環境工学は、これらの社会基盤施設の計画、設計、施工、管理に必要な技術を中心に、水・地盤環境、生態系、防災、社会資本政策など、人々の社会基盤と自然環境の保全・創造に関わる幅広いフィールドをカバーする実践的な学問です。学問の範囲は非常に広く、高い専門性に加えて、プロジェクトを成功に導くためのマネジメント力やリーダーシップ、チームで協力し合うコミュニケーション能力が求められます。本学科では、構造系、地盤系、水系、防災系、環境系の基礎科目と、多様な問題に対処する能力を養う応用科目を体系的に学びます。社会に貢献できるエンジニアとしての専門知識や技術の習得に加え、柔軟な思考力やリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。



・水理学

水の災害から生命や財産を守るために水の性質や運動を理解します。

・大規模災害概念

地震・台風・豪雨・火山等の自然災害のハザードを理解し、自然災害を受ける社会及び社会システムの被害特性について学びます。

・鋼構造学

規模の大きな構造物、複雑な構造物などに用いられる鋼構造の特徴と、その設計法について理解を深めます。

・土質力学

土の物理・化学的物質、分類法、地盤の強度、土中の水の流れ等を扱います。

その他、学びのポイント

幹部自衛官として21世紀の日本の将来を担い、幅広く活躍するため、道路、橋梁、港湾などの建設や国土・都市計画に関する理論など学習する土木工学、自然災害から人命を守る防災工学、社会生活にかかわる環境工学など、幅広い教育を行っています。

専
門
科
目
一
例



>>> 卒業生の声!

現在のF-15戦闘機操縦にも活かされる経験ができます

私は「金属薄膜の強度測定方法」というテーマで卒業研究を行いました。膨大な量のデータ収集及び分析を日々継続した先に、納得できる成果を収める事が出来ました。その経験は、「日々の訓練で得た教訓の積み重ねこそが重要」である現在のF-15戦闘機操縦者としての技量向上に活かされています。

◀ 思い出の一枚：防大名物、白熱の棒倒し

航空幕僚監部人事教育部人事教育計画課 3等空佐 谷口 雄哉



防衛学

日本で唯一、防衛大学校でしか学べない「防衛学」。国防、軍事技術、戦略・作戦、統率及び軍事史を研究する学問分野です。人文・社会科学、理工系などの幅広い分野の理論的根拠を基礎として、それらを応用して実践に結びつける総合的・学際的な学問で、これらの教育を担当するのが防衛学教育学群です。



INTERVIEW

教授インタビュー

将来、幹部自衛官になるために学ぶ防衛学 それは、国際社会において活躍する上で必要不可欠な 軍事知識を学べること

軍事や国防に関する知識は、安全保障や世界経済を理解する上で重要な学問であるにもかかわらず、一般的にはなかなか学ぶ機会はありません。日本では学びの機会が少ないですが、世界各国で起きている戦争や紛争の背景や、軍事力がどのように経済や国際情勢と関わっているのかなどを知ることが、世界各国の一定レベル以上のエリート層では常識となっています。卒業後には各自衛隊の幹部自衛官として部下を持つ上で、知識がないと正しい戦略を立てられません。そして、日本の防衛のみならず、世界の平和に貢献するためにも防衛大学校の学生には必要不可欠な学問でもあります。

私も、防衛大学校学生時代に防衛学を学んだ一人です。当時、ニュースや新聞を参考にして各国の軍事力がどう使われているのかや紛争の背景についての理論立てなど、実際に世界で起こっていることを教材として防衛学を学びました。それらは幹部自衛官としてのキャリアを重ねることの基礎となりました。防衛大学校でしか学べない「防衛学」は常にアップデートされており、サイバー戦、情報戦なども授業に取り入れています。世界に通用する学生になってほしいという思いを込めて、4年間をかけて教えていきます。



統率・戦史教育室
関口景 教授(1等陸佐)



>>> 在校生の声!

理想の指揮官像を見出すことができた「防衛学特論」

防衛大学校に入学したのは、高校時代の先輩へのあこがれがきっかけです。防衛学では日本の防衛戦略や国際情勢といった安全保障に関わる内容や、作戦や統率といった指揮官に必要なスキルを身につけることができます。私は「防衛学特論」というゼミ方式の授業で統率について研究し、将来任官した際の理想の指揮官像を見出すことができました。

◀ 思い出の一枚：3学年時の断郊競技会

133小隊 4学年 井口 遼平



第1学年

■防衛学基礎 I・II

古代から現代に至る世界の主要な戦争について歴史的に概観しつつ、戦争の本質とその変遷、防衛学における基本的概念や理論等の基礎的知識を理解し、じ後の防衛学を履修する際の基礎を身に付けます。



第2学年

■国防論

現代の国防に関する諸問題を理解・考察するための基礎的知識を学びます。

■軍事史序論

近代以降の日本の軍事史について、国防政策、軍事戦略、軍事制度、戦争・作戦指導などの視点から考察することにより、じ後の研鑽に必要な軍事史的素地を身に付けます。

■作戦基礎

サイバー、宇宙、電磁波等新領域を含めた各種作戦の基礎を学びます。



第3～4学年

■統率

目的達成のために集団の力を結集させる幹部自衛官としてのリーダーシップに関する目標(理想像)と今後修練すべき事項の確立のための素地を身に付けます。

■軍事と科学技術

科学技術の発達が進んできた影響、教訓事項などの考察を通じて軍事と科学技術の相互関連性及びその重要性を学びます。

■戦略

主要な戦略論の概要及び戦略の基礎理論などの他、戦略の概念及び戦略的なものの見方、考え方を学びます。

■作戦、統合作戦

各種の作戦及び領域横断型の作戦の概要と特質、並びに軍事の意義について学びます。

■国際情勢と安全保障

新たな脅威や多様な事態への対処に必要な最新の知識を涵養するとともに、分析考察する理論的思考力を向上させます。

■防衛学特論 I・II

自衛官としての実務経験を有する教官による少人数制のゼミナールであり、安全保障や防衛に関する諸問題を広い視野をもって実践的かつ多角的に研究します。

■選択科目

第3学年後期、第4学年において上記必修科目で学んだことをさらに深く考察できるよう、多様な選択科目を開講します。



国防論教育室

国防論教育室は、防衛学を学ぶにあたって、現代の国防に関する諸問題を理解、考察するための基礎的知識の修得を目的に教育しています。国防の専門家として、実際に海外派遣や部隊運用等に従事してきた幹部自衛官教官が直接教育を行います。防衛の多面的基礎的知識を得ることにより、現代の国際関係における安全保障、国防政策、国際紛争、防衛力整備などの理解が容易になります。

●国防論教育室が担当する教育内容

- 現代の国防に関する基礎的知識
- 軍事と科学技術
- 国際情勢と安全保障
- 地域研究
- 国際関係論基礎
- 防衛学専門書講読

戦略教育室

戦略教育室は、学生が卒業後部隊で活躍するために必要な戦略的思考能力及びそれを支える軍事に関する体系的知識を養成しています。防衛の専門家として、実際に海外派遣や部隊運用等に従事してきた幹部自衛官教官から直接学ぶことにより、国防の最前線を理解することができます。

●戦略教育室が担当する教育内容

- 戦略軍事思想(世界各国の軍事戦略、我が国の防衛戦略)
- 陸上、海上、航空及び統合で行われる各種作戦
- 近代以降の軍事戦略、軍事組織の意思決定、戦争指導と軍事指揮、地政学的な視点での戦略等に関する選択科目

統率・戦史教育室

統率・戦史教育室では、先人の知恵から教訓を学ぶ統率及び軍事史の科目を通じて、「広い視野、科学的思考力、豊かな人間性」を有し、新たな環境に適応しうる、国防のリーダーを育てる教育を実践しています。

●統率・戦史教育室が担当する教育内容

- 防衛学に必要な基礎的知識
- 統率
- 軍事史
- 英語の基本的表現力及び軍事事項
- 統率・軍事史に関する選択科目

選択科目一覧	国	防	政	策
	科	学	技	術と安全保障
	戦	略	論	I・II
	軍	事	史	I・II・III
	防	衛	学	専門書講読I・II
	防	衛	英	語

共通科目

本校では、一流の社会人として身につけるべき教養、国際社会に対応する語学力、自衛官として必要な体力と防衛に関連する知識を4学年にわたって修得します。多様な授業を通して、柔軟な思考力と豊かな教養を持つバランスのとれた人格形成を目指します。



001

教養教育



社会人・職業人として必要な教養と、大学生に求められる基本的な知識を学びます。幹部自衛官には広い視野と豊かな創造力、バランスのとれた判断力が求められるため、一般大学に比べ教養教育を重要視しています。科目内容に基づき必修・選択必修・選択の3種類の科目に分け、4学年までに合計24単位履修します。



002

外国語



英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語、アラビア語及びポルトガル語の8言語の教育を行います。英語は必修で12単位履修し、e-learningや外国人教官による授業も取り入れて英語能力を養成します。その他の外国語についてはいずれか一つを選択し、2単位履修します。



003

体育



自衛官として要求される強靱な体力、技能及び社会性を養成することを目的として行っています。修得単位は体育理論2単位、体育実技4単位の計6単位です。安全で科学的・合理的な指導により、これまでスポーツをしたことがなくても段階的に体力をつけることができます。また、施設などのトレーニング環境も整っています。



004

専門基礎



人文・社会科学専攻では歴史学、人間学、政治学、経済学、憲法、国際法概論など18単位、理工学専攻では数学、物理学、化学など30単位を、1・2学年で履修します。



訓練

訓練は、各学年全員が同じ内容で行う「共通訓練」と、第2学年において陸上・海上・航空要員に指定された後に行う「要員訓練」に区分されます。訓練時期は、毎週2時間程度（1学年時は毎週4時間）の課程訓練と特定の期間に集中（1か月の訓練を1回、1週間の訓練を2回程度）して実施される定期訓練の2つに分けて行われます。

≫ 共通訓練

目的は、「基本的な技能及び基礎的体力を向上させる」こと、そして陸上、海上、航空の「各自衛隊の機能について理解を深める」ことです。

・ 第1学年時

第1学年時の訓練はすべて共通訓練です。内容は、敬礼や行進等の自衛官の動作の基礎となる基本教練をはじめ、8km遠泳、戦闘訓練、小銃射撃、カッター、陸上・海上・航空自衛隊研修等を行います。

・ 第2学年時

積雪地におけるスキー訓練を行い、スキーによる行動のための技術を習得させるとともに、体力・気力を向上させます。

・ 第3学年時

硫黄島の戦跡を研修して幹部自衛官に求められる資質・識能を深めるとともに、国家防衛に任ずる使命感を高揚させます。

・ 第4学年時

陸・海・空幹部自衛官として必要な資質、特にリーダーシップ及び使命感について理解を深めさせ、これを育成します。

≫≫ 入校後教育



≫≫ 夏季定期訓練（海上自衛隊研修）



≫≫ 小銃射撃



≫≫ 8km遠泳



≫ 要員訓練

「プロとしての資質を育成すること」、「幹部自衛官に必要な運用の基礎を身に付けること」を目的として、陸上・海上・航空の各要員ごとに基礎訓練と体力練成を行います。



陸上

陸上自衛官の野外行動の習得に始まり、隊員や部隊を運用する知識や技術を学びます。

・ 第2学年

新潟県の関山演習場等において約10日間、射撃や戦闘訓練などを行い、野外における行動能力を養います。

・ 第3学年

全国各地の普通科部隊に派遣されて約3週間、第一線部隊の隊員と起居を共にして部隊勤務の実習を行います。

・ 第4学年

北海道大演習場で約3週間、攻撃や防御等の戦術行動を作戦の準備から実行までの一連の行動を実戦しながらに訓練します。この訓練を通じて、小部隊の指揮・運用要領などを学び、実員指揮能力の向上を図ります。



海上

シーマンシップの習得に始まり、主に艦艇乗組員として必要な基礎的知識を学びます。

・ 第2学年

東京湾にてカッター及びクルーザーヨット訓練などを行い、船乗りとしての基礎を学びます。また、護衛艦等での乗艦実習のほか、広島県江田島市にある海上自衛隊幹部候補生学校（旧海軍兵学校）、潜水艦を研修します。

・ 第3学年

航空部隊の実習と陸上部隊の実習を行うほか、シーマンシップを養成するため、クルーザーヨットを使用した巡航訓練を行います。

・ 第4学年

機動艇を使用した巡航訓練や護衛艦の乗艦実習によってシーマンシップを養成するとともに、実際の艦橋（ブリッジ）を模したシミュレーターを使用した訓練を実施し、艦艇勤務の基礎を学びます。



航空

航空自衛隊に関する知識教育に始まり、組織的な部隊の運用要領を学びます。

・ 第2学年

グライダーに搭乗する訓練により、空中で勤務することの特性について体得するほか、整備、管制や気象などの航空機を運用するにあたり必要な基礎事項について主に知識教育により学びます。

・ 第3学年

戦闘機を有する基地で約3週間、基地の隊員と起居を共にして基地勤務の実習を行います。この間、小型ジェット機への搭乗の他、基地に所在する多種多様な部隊で実習等を行います。

・ 第4学年

航空団を編成し、学生自らが指揮官となってグライダーを運用する訓練を行い、組織的な部隊運用要領を学びます。また、基礎的な作戦について図上演習を行います。

国際交流

防衛大学校では、国際的視野に立脚した識見を養うとともに、伸展性のある資質を育成するため、積極的な国際交流を図っています。具体的には、学生を海外の士官学校へ派遣する留学制度があるほか、海外留学生・研修生の受け入れなども行っています。

留学制度

派遣

・短期(1~3週間)

3学年の学生を対象に、成績や語学力を考慮してアメリカ・フランス・ドイツ・韓国・オーストラリア・タイ・ブラジル等の各士官学校に派遣しています。

・長期(約4ヵ月)

3学年を対象に、成績や語学力を考慮して、アメリカ・フランス・ドイツ・カタール・韓国等の各士官学校に派遣しています。

・長期(約1年間)

3学年を対象に、成績や語学力を考慮して韓国軍士官学校に派遣しています。
※これらに加えて、令和7(2025)年から、米
国陸・海・空軍士官学校へ留学(4年間)させるプログラムを開始しました。



受け入れ

・留学生受け入れ

タイ、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、モンゴル、ベトナム、韓国、カンボジア、東ティモール、ラオス、ミャンマー等の士官候補生を留学生として受け入れ、日本の学生と同じ環境で教育を行っています。(1年間の語学研修を含め5年間)



・研修生受け入れ

アメリカ・オーストラリア・カナダ・韓国・タイ・フランス等の各士官候補生が毎年数週間又は4ヵ月間の研修にきています。



留学生との国際交流

防衛大学校での留学生の受け入れの様子についてフィリピンから留学中のアンジェル・ロドリゲス・ガイラさんにお話を伺いました。



——日本の防衛大学校へ留学したきっかけを教えてください。

本国の士官学校で選抜されて来ました。勉学、訓練、そして学生舎生活で学んだことを自国で活かせるように日々努力しています。防衛大学校での1番の思い出はカッター訓練(大型の手漕ぎボートを漕ぐ訓練)ですね。全身筋肉痛、手のマメが出来てはつぶれの繰り返しで…訓練中は本当に大変でした。8km遠泳も大変でしたが良い思い出です。

——防衛大学校で学べることは?

私は理系で、学科は電気電子工学科です。工学について多くのことを学び、それに加えて、幹部自衛官に必要な訓練も日々行っています。何よりも人間関係を沢山学びました。特に学生舎では8-10人の学生が1つの部屋で集団生活しています。小隊、中隊、大隊、学生隊といった規模で、多くの学生と生活を共にします。そのため、何を行うにしても、周囲の学生と協力して作業に当たる必要があります。それを通じてリーダーシップ及びフォローシップを学びます。

——学生同士の国際交流の様子は?

文化部合同発表会を毎年行っています。開校記念祭では留学生が自国についての展示などを行っています。3月に実施されるICC(国際士官候補生会議)にも留学生は多く参加しており、良い国際交流の場となっていると思います。

——これからの夢を教えてください

フィリピンに戻り士官学校の指導教官の仕事を経て軍隊に行きます。進路はその後決まりますが、希望としては戦闘機のパイロットになりたいと思っています。

443小隊 4学年(フィリピン共和国出身) アンジェル・ロドリゲス・ガイラ



国際交流
防衛大学校 広報
チャンネル

国際士官候補生会議(ICC)

ICCとは国際士官候補生会議(International Cadets' Conference)のことです。防衛大学校主催により、諸外国の士官候補生を招へいて国際会議を開催し、国際情勢及び安全保障に関する討議などを行い、各国とわが国の将来の安全保障につながる信頼関係の促進を目的としています。

アメリカ、イギリス、イタリア、オーストラリア、カナダ、韓国、ドイツ、ニュージーランド、フランス等、世界各地から約20ヵ国の士官候補生を招へいし、5日間程度の日程で行っています。



研究科

現役の自衛隊員を対象として、自衛隊の任務遂行に必要な高度の理論と応用についての知識や、これらに関する研究能力を修得させることを目的としています。教育カリキュラムは、大学院設置基準の修士課程・博士課程に準拠しており、受験資格は部隊勤務を経て防衛省各機関の長が推薦した者に与えられます。

理工学研究科

前期課程

・概要

理学及び工学に関する高度の理論と応用についての知識、これらに関する研究能力を修得させるための教育を行っています。1学年の学生数は約90名、修学年限は2年です。専攻は「電子工学」、「機械工学」、「航空宇宙工学」、「物質工学」、「情報数理論」、「境界科学」及び「地球環境科学」の7専攻です。

・学位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する論文の審査と試験に合格すると、修士(理学又は工学)の学位が授与されます。

・受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、又は自衛官以外の隊員で、防衛大学校を卒業した者、学校教育法による大学を卒業した者、又は文部科学大臣がこれらと同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

後期課程

・概要

装備等の開発能力を有する人材を育成するため、専門的かつ高度な研究能力及びその基礎となる学識を修得させるための教育を行います。1学年の学生数は約20名、修学年限は3年です。専攻は「電子情報工学系」、「装備・基盤工学系」及び「物質・基礎科学系」の3専攻です。

・学位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する論文の審査と試験に合格すると、博士(理学又は工学)の学位が授与されます。

・受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、又は自衛官以外の隊員で、防衛大学校理工学研究科前期課程又は防衛大学校総合安全保障研究科前期課程を卒業した者及び卒業見込みの者、修士の学位を有する者及び取得見込みの者、又は防衛大学校長が修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

総合安全保障研究科

前期課程

・概要

社会科学の専門的学識に裏付けられた安全保障に関する幅広い視野と高度の実践的問題解決能力を養うための教育を行っています。1学年の学生数は約20名、修業年限は2年です。専攻は総合安全保障の1専攻で、この専攻の中に「国際安全保障コース」、「戦略科学コース」及び「安全保障法コース」の3つの履修コースを設けています。

・学位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する論文の審査と試験に合格すると、修士(安全保障学)の学位が授与されます。

・受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、又は自衛官以外の隊員で、防衛大学校を卒業した者、学校教育法による大学を卒業した者、又は文部科学大臣がこれらと同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

後期課程

・概要

高度化・多様化した安全保障・戦略問題の最新の研究成果を踏まえ、安全保障の広い領域にわたる高度の専門的学識と実務的能力を持つ人材を養成します。1学年の学生数は約7名、修業年限は3年です。専攻は、総合安全保障の1専攻です。

・学位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する論文の審査と試験に合格すると、博士(安全保障学)の学位が授与されます。

・受験資格

防衛省各機関の長が推薦した者だけに受験資格が与えられます。推薦は幹部自衛官、又は自衛官以外の隊員で、防衛大学校理工学研究科前期課程又は防衛大学校総合安全保障研究科前期過程を卒業したもの及び卒業見込みの者、修士の学位を有する者及び取得見込みの者、又は防衛大学校長が修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者のうちから行われます。

PICK UP

先端学術推進機構グローバルセキュリティセンターの紹介

2016年4月、防衛大学校にグローバルセキュリティセンター(GS)が発足しました。GSは、国際社会が直面する多種多様な安全保障課題を多角的に研究し、その研究成果を広く発信することを目的としています。GSの特徴は、第一に、文理融合型の統合的な研究アプローチにあります。約300名の防衛大学校教官の専門知識を総動員し、人文社会科学、理工学、防衛学による学際的な最先端研究に取り組みます。第二に、国内外の研究者と積極的に交流し、防衛大学校を安全保障研究の一大拠点として世界にアピールしていきます。こうして学内に蓄積されていく研究成果は、最先端の知見として、学生への教育に還元されていきます。



GS研究プログラム一例

- ・アジア安全保障
- ・宇宙安全保障
- ・感染症対策と安全保障
- ・ジェンダー・メンタルヘルス
- ・安全保障・軍事作戦法規
- ・サイバーセキュリティ
- ・海洋安全保障
- ・防災・危機管理
- ・ミリタリープロフェッショナルリズム
- ・デュアルユーステクノロジー
- ・シミュレーション、オペレーションズ・リサーチ
- ・電磁波安全保障

防大GSでは、上記の12分野に焦点を当て、多様で実用的な研究を国内外の研究者と協働して積極的に進めています。こうした研究成果の一部として、イスラエル・オープン大学との共同セミナーにおいては、英文セミナー叢書『日本とノルウェーにおけるジェンダー・多様性・リーダーシップの開発』を発行しています。さらにはスウェーデン国防研究所(FOI)との共同セミナーにおいては英文セミナー叢書『インド・太平洋における中国の影響力行使：パターンと地域からの考察』を発行しています。その他のセミナー叢書や研究叢書及び調査報告の発行、さらにグローバルセキュリティセンターの活動実績を、グローバルセキュリティセンターのホームページで公開する形で世界に発信されています。

進路・卒業生の声

卒業後は、幹部候補生から幹部自衛官へ。さまざまな職域に
応じた専門教育を受け、活躍する卒業生の姿を紹介します。

※肩書は取材当時の情報です。

入浴・給水班長

CASE.01

幹部自衛官の魅力はいろんな仕事にチャレンジでき、その都度、自分の成長を実感できることです。私の場合は、幹部候補生学校を卒業をしてすぐ東日本大震災が発生。後方支援のために、熊本から陸路で宮城県の南三陸町に入り、被災者の方々の入浴支援を担当しました。不安もありましたが、被災者の方々へ元気と癒しを与えられるようにと心がけていました。その後も、部隊の指揮官なども経てキャリアを積んでいます。

3等陸佐 野呂瀬 敬子(2010年卒)

※災害派遣時



陸上



陸上

CASE.02

自衛隊のことを知ったのは中学生の時。調べているうちに防衛駐在官という仕事があり、平和を維持する役割を担っていることを知り、幹部自衛官を志して防衛大学校を目指しました。防衛大学校には各学科において一流の教授がそろっており、学ぶ環境としては最高です。また、特別職国家公務員として、毎月学生手当がもらえ、自立した生活が送れます。防衛大学校は資質と能力を涵養できる、幹部自衛官を目指す人には最高の教育機関です。

1等陸尉 小山 恭平(2016年卒)

航空操縦士

防衛大学校指導教官

CASE.03

防衛大学校の学生舎で指導教官として学生のサポートをしています。将来、幹部自衛官となる上で大切な人の心の掴み方、立ち振る舞いや言動、人間性を育てています。私も同じ防衛大学校の卒業生ですので、年齢、世代は違えど彼らの意見を尊重し、ケアをしています。指導教官以外でも、さまざまな点でサポートをしてくれる環境も整っており、他の大学では味わえない、深い人間関係や一生ものの絆ができると思います。

1等海尉 相馬 翔太(2015年卒)



海上



航空

CASE.04

私は、地对空誘導弾により、日本を防衛することを任務とする第1高射群におります。高射運用幹部として指揮官補佐、訓練計画作成を実施するとともに、現場指揮官として部下隊員を指揮することを職務としています。米軍との共同訓練への参加や、アメリカでの実弾射撃訓練などの経験もしました。さまざまな任務がありますが、やはり部下の成長が見られた時に非常にやりがいを感じております。

1等空尉 長船 拓郎(2013年卒)

高射運用幹部

宇宙作戦群防衛班員

CASE.05

高校の時、進路指導教諭から自衛官や防衛大学校の話聞いて興味を持ち入学を志望しました。実際に訓練や防衛学といったここでしか学べないことにも魅力を感じました。航空宇宙工学を専攻し、現在は航空自衛隊宇宙戦群で、宇宙の平和的・安定的利用に向けた宇宙状況把握（SSA）の運用準備を実施しております。国境のない宇宙という分野で、他国間連携など、注目される分野の一端を担えることに誇りを感じております。

1等空尉 飯野 可季（2016年卒）



航空

CASE.06

護衛艦まや水雷士

東日本大震災の報道などを目にし、私自身もその力の一端になればと思い防衛大学校を志望しました。防衛大学校の1番の思い出は、年に一度、開校祭の際に行われる棒倒しです。1~4年まで一致団結して優勝を目指して頑張りました。卒業後、海上自衛隊幹部候補生学校で学び、練習艦隊の遠洋航海、護衛艦ちょうかい通信士、あさぎり機関士を経験しました。これからも、特に武器まわりを受け持つ運航幹部として勉強や訓練をしていきたいと思っています。

1等海尉 八杉 龍治（2016年卒）



海上

CASE.07

政府専用機パイロット

現在の職種は、政府専用機のパイロットです。天皇陛下や総理大臣などの要人輸送が主な任務であり、海外に行くことが多く、世界中を飛び回ることができます。防衛大学校の志望理由はパイロットになりたかったからです。他大学と違い、学士が取得するのに学費もかかりません。また、戦闘機の体験搭乗や護衛艦、潜水艦、戦車の見学など数え切れないくらいの貴重な経験ができることは人生の大きな糧になると思います。

1等空尉 岩崎 絢子（2014年卒）



航空

CASE.08

護衛艦やまぎり艦長

護衛艦の艦長として護衛艦を運用し、オペレーションをする仕事をしています。入隊2年目にインド洋派遣初の女性自衛官として参加したほか、国内外で様々な勤務を経験しました。防衛大学校への志望動機は、高校生の時に興味を持った国際関係を専門的に勉強できる学科があると知ったためです。寮生活も当初は不安がありましたが、同期の心強いサポートもあり馴染むことができました。当時の経験は集団生活が基本となる護衛艦でも非常に役立っています。

1等海佐 山内 由香子（2003年卒）



海上

防大生の1DAY SCHEDULE

防大では決められた日課に従って規則正しい生活をするようになります。学生舎では各学年2名、計8名で自習室と寝室を共にし、コミュニケーション力や自律心を養います。防大生の1日を、起床から就寝まで時間を追って紹介します。



規則正しい生活の中で、自分の成長を感じられます。

412小隊3学年
橋本 翔彦

寮生活PICKUP



気になる寮生活。規則正しい生活は厳しいだけ?と感じるかもしれませんが、ルームメイトとの楽しい時間や休日のオフには自分で料理を作ったり、のんびり過ごしたりできる環境があります。

06:00 >>>>>>>	06:35 >>>>>>>	08:10 >>>>>>>
 起床・点呼 起床ラッパの音で一斉起床。寝具を片付け、学生舎前に5分で整列します。	 朝食 朝の清掃などを終え、学生が学生食堂に集合し、朝食をとります。	 国旗掲揚／朝礼／課業行進 国旗掲揚・朝礼後は整列して教場へ。行進しながら部隊行動の基礎を修得します。

08:30 >>>>>>>	11:40~12:40 >>>>>>>	13:00 >>>>>>>
 午前授業 各教場で授業が行われます。内容は防衛学以外一般の大学とほとんど変わりません。	 昼食 学生が学生食堂に集合し、一斉に昼食をとります。	 午後授業 5~8限目の授業。学年が上がるごとに専門的な授業を受けます。

16:15 >>>>>>>	19:30 >>>>>>>	22:30 >>>>>>>
 校友会活動 学生は校友会活動を通じて、体力・気力の向上を図り、チームワークを学びます。	 自習 自習時間は1日2時間。限られた時間で、いかに集中して勉強するかが重要に。	 消灯 必要な場合は届け出て24:00まで消灯を延期することができます。

気になる防大ライフについて聞きました!

Q: 入学前後でのギャップはありますか?

当初は初めて経験することが多く、短い時間で多くのことを成し遂げるのに苦労しました。年間を通して同じような生活が続くのかと思いましたが、さまざまな行事や競技会があり、忙しくもメリハリのある充実した生活が送れています。

Q: 待遇面はいかがですか?

学費や生活費に関して親族に心配をかけることがなく、手当がもらえるため、学業や校友会に必要な物品を購入できます。また、毎日食事が出されるため防大の「3本柱」と言われる教育訓練、学生舎生活、校友会に専念することができます。

Q: 防大のいいところ、大変なところを教えてください

さまざまなことに挑戦できる環境が整っており、強い気持ちを持っていれば一般大学では絶対に経験することのできない4年間を過ごすことができます。在学中は厳しい規律に従って生活しなければならないことは大変なところです。

Q: 寮生活のいいところを教えてください

勉強面だけでなく、生活面においても困ったことがあれば、頼れる上級生や同期にすぐに相談できます。また、同期、先輩、後輩との強い絆は卒業後も続く宝物となります。

»» 防大施設紹介

緑に囲まれたキャンパスには教場や学生舎、図書館、グラウンドなど、学業や訓練に専念できる環境が充実しています。

正門をくぐると、正面には本部庁舎



本部庁舎

防衛大学校を象徴する庁舎で、授業や校友会等に関する各種手続きの窓口があります。

記念講堂

式典や講演等が行われます。



入学式典、卒業式典などが行われる

60万冊以上の蔵書数



総合情報図書館

現在所有している図書は約60万冊で、特に軍事防衛分野の図書・雑誌が充実しています。

記念講堂の隣に位置する人文科学館



人文科学館

LL教場などがあり、外国語や人文科学系の教育・研究が行われます。

学生会館

貯金などの福利厚生業務を行う厚生課があり、1FにはコンビニやATMもあります。



コンビニも入っており購買可能

第1～第4学年が集う学生舎



学生舎

寝室と自習室、集会室、洗濯室など、団体生活を過ごしやすい設備が整っています。

温水プールやトレーニング室も完備



総合体育館

体育や校友会活動が行われる総合体育館。日々体力を維持するための、トレーニングができます。

武道場

柔道、剣道、空手道、合気道などの武道に使用する施設です。



武道に使用する施設

整備された各種の競技場などを設置



競技施設

陸上競技場やラグビー場、テニスコート、アメリカンフットボール場等が整っています。

»» 年間行事

年間行事を通じて、防大生は心を磨き、友情を深め、自分自身の殻を打ち破ります。



4月 : 入学式 ・カッター競技会(2学年)
・春季定期訓練等(全学年)

5月 :

6月 :

7月 : 夏季定期訓練(全学年) ・遠泳(1学年)

8月 : 夏季休暇

9月 : 水泳競技会 ・前期定期試験

10月 : 秋季定期訓練(1学年)

11月 : 開校記念祭

12月 : 冬季定期訓練(3学年) ・冬季休暇

1月 : 冬季定期訓練(2学年)

2月 : 後定期試験

3月 : 断郊競技会(3学年) ・持続走競技会(4学年)
卒業前訓練(4学年) ・進級前訓練(1~3学年)
卒業式 ・春季休暇

「Come On!」 オープンキャンパス

★令和8年度は、6・7月に実施を予定しています。



学校長ウェルカムスピーチ及び学校紹介

久保文明学校長が、来校者の皆様にスピーチを行いました。



入試概要説明

職員が推薦試験、総合選抜試験、一般試験の日程や特色について、説明しました。



個別入試相談

入試に関する質問等について、職員が丁寧な説明を実施しました。



模擬授業

防衛大学校の授業を体験していただきました。



研究室公開

普段見ることができない研究室を公開しました。



学科紹介

学科等の教官、研究科学生(大学院生)が、特色・カリキュラム等を詳しく紹介し、来校者からの質問に対して回答いたしました。



学生舎見学

自習室・寝室等学生が実際に生活している施設を見学していただきました。



防大生との座談会

学生舎生活や訓練を通しての出来事を中心に在校生が座談会を行いました。



儀仗隊展示

防衛大学校で最も知名度が高い集団といっても過言ではない儀仗隊のドリル演技を参加者の皆様に披露しました。



訓練見学

防大生が行う訓練を見学していただきました。



留学制度説明・個別相談

海外留学についての説明・個別相談を行いました。



現役将官による体験談

防衛大学校出身の現役陸将が、自身の体験談をお話しました。

防衛大学校入試広報チャンネル

防衛大学校入試広報チャンネルでは、在校生やOB・OGからのメッセージ、模擬授業を掲載しております。



知りたい！防大Q&A

Q. なぜ「大学」ではなく「大学校」なのですか？

所管が違うためです。 A.

防衛大学校は、文部科学省所管の学校ではなく、「将来、陸上・海上・航空の各自衛隊の幹部自衛官となるべき者を養成するため」に防衛省設置法によって設立された、防衛省所管の学校です。国の予算で設立された学校であっても、文部科学省所管でないために「大学校」と呼ばれています。

Q. 授業料はかかりますか？

かかりません。 A.

防衛大学校学生は自衛隊員（特別職国家公務員）であり、学業、訓練に専念することが仕事です。このため入学金や授業料がかからないばかりか、毎月学生手当が支給されます。したがって、一般大学とは違い、病気等やむを得ない場合を除き自分の都合だけで授業や訓練を休んだりすることはできません。

Q. 陸・海・空の要員はどのようにして決まりますか？

2学年へ進級する際に決まります。 A.

本人の希望、成績、適性等を考慮し、2学年へ進級する際に陸・海・空の各要員が決定します。現在の要員比率は陸2：海1：空1です。全ての学生が希望の要員になれるわけではありません。

Q. 受験要項はどこで入手できますか？

地方協力本部で入手できます。 A.

各都道府県に地方協力本部という自衛隊の組織がありますので、そちらへお問い合わせ頂ければ、入手できます。また、自衛官募集ホームページや、防大ホームページの入試情報で受験要項を掲載しています。

Q. 推薦採用試験、総合選抜採用試験、一般採用試験は併願できますか？

一般採用試験のみ併願可能です。 A.

推薦採用試験と総合選抜採用試験の併願は、同日実施のためできませんが、一般採用試験との併願が可能です（必ず受付期間中に志願をお願いします）。ただし、推薦採用EX又は総合選抜採用EXのいずれかの試験を合格した者は一般採用試験の選考対象とはなりません。

Q. 自宅通学はできますか？

できません。 A.

学生は全員入校と同時に学生舎で生活することが義務づけられ、自宅から通うことはできません。学生舎には自習室、寝室、集会室、シャワー室、洗濯室等の生活に必要な設備が完備されています。自習室と寝室は8人部屋（基準）となっており、第1学年から第4学年までの学生が同じ部屋で一緒に生活します。

Q. 外出はできますか？

土・日・祝日に外出できます。 A.

全学年、土・日・祝日に外出できます。また、第2学年以上は申請を行うことにより、週末に外泊することもできます。第1学年は特別の理由（校友会活動等）により必要と認められた時以外の外泊はできません。ただし、夏期休暇及び冬期休暇中は第1学年も外泊（帰省）することができます。

Q. 外出時は制服ですか？

私服の着用もできます。 A.

学生は定められた制服等を着用しなければなりません。外出を許可された時、または休暇を与えられた時に校外において私用で行動する場合などには、私服を着用できます。ただし、第1学年は帰省を除き、私服の着用を禁止されています。

Q. 学生隊とは何ですか？

学生により構成される学生組織です。 A.

防衛大学校の学生は、全員が入校と同時に学生隊に属し、学生舎において4年間の共同生活を送ることになります。学生隊とは、学生の共同生活を円滑にし、自律心を養うため全学生により構成される学生組織です。各学年には用務が振り分けられており、一例として学生舎の清掃（朝・夕）、食事当番などがあります。最初は時間に追われて不自由を感じるかもしれませんが、そうした生活することで知らず知らず幹部自衛官としての資質が養われていきます。

Q. 体力に自信がないのですが、大丈夫ですか？

大丈夫です。 A.

幹部自衛官には相応体力が必要です。このため学生は体育、訓練及び校友会活動を通じて4年間の中で段階的に体力を向上していくこととなります。なお、体力の素質の低い学生に対しては、科学的かつ合理的な体力向上のための専門プログラムが組まれています。

受験要項

防衛大学の受験に関するお問い合わせは防衛大学校入学試験課、または最寄りの自衛隊地方協力本部募集課まで。

採用種目	防衛大学校学生 推薦	防衛大学校学生 総合選抜	防衛大学校学生 一般
応募資格	18歳以上21歳未満の者 高卒者（見込含）又は高専3年次修了者（見込含）で成績優秀かつ生徒会活動等に顕著な実績を修め、学校長が推薦できる者	18歳以上21歳未満の者（自衛官は23歳未満） 高卒者（見込含）又は高専3年次修了者（見込含）	

※試験に関する詳しいことは、受験要項又は自衛官募集ホームページをご確認ください。

防衛大学校
入試情報



処遇

- 身分** 特別職国家公務員
- 休日・休暇** 週休2日制、祝日、年末年始特別休暇等
- 手当** 学生手当月額161,000円※（令和8年1月1日現在）
※学生手当については、法律の改正により改訂されることがあります。
- 医療施設** 自衛隊病院、学校医務室
- 期末手当** 年2回（6月、12月）
- 福利厚生** 防衛省共済組合
貯金事業/普通・定額積立・定期貯金
貸付事業/普通・特別・住宅・財形など
物資販売事業/売店・展示即売会
- 衣食住** 全員が学生舎で生活し、宿舎は無料。
食事・被服類・寝具については支給または貸与。

アクセス



- 電車をご利用の場合**
- 京浜急行電鉄「馬堀海岸駅」下車、
京浜急行バス「防衛大学校」行き約6分、または徒歩約25分
 - JR横須賀線「横須賀駅」下車、
京浜急行バス「防衛大学校」行き約30分

- 自動車をご利用の場合**
- 横浜横須賀道路
「馬堀海岸インター」降車、約5分

・お問い合わせは下記の自衛隊地方協力本部へ



自衛官募集
ホームページ